

# すず若者意見交換会(第1～2回)報告

令和6年9月20日  
すず里山里海移住フロント  
(珠洲市企画財政課)

## ●すず若者意見交換会とは？

それぞれが今考えていることや想いを共有し、自分たちはどう生きるか、これからの珠洲をどうしていくかを一緒に考えようという会です。本会での意見は市役所関係課室にも共有するとともに、ホームページ等で公開します。

## ●第1～2回開催

6月～9月にかけて、金沢方面、珠洲市内、オンラインで計5回開催し、77名が参加しました。1回目は「自分や家族がどう過ごしたいか」「これからの珠洲市のために何に取り組むか」について、2回目は「子ども・教育」をテーマとして「珠洲の学校教育で大切にしたいこと」などを議論しました。



会場の様子（左：野々市、右：珠洲）



お子様連れの参加者も



大切にしたいことを「幸せのたまご」で表現

## ●第1～2回で出た意見（まとめ）

以下の通り、本会にて出た意見を復興計画（案）の基本方針及び施策ごとに分類しながらご報告します。詳細は別紙資料「すず若者意見交換会 意見一覧表」をご覧ください。

### 基本方針2 暮らしとコミュニティの再建（※このうち、施策2-4「学びの環境の再建」については裏面にて記載）

- ・ 家族みんなと一緒に暮らしたい。
- ・ 珠洲にいたい、珠洲で暮らしたい（衣食住が満たされて、安心安全な、生き生きとした）。
- ・ 区長以外に住民意見を集約するまとめ役が必要。世代交代の時期。区長には言いにくいことだってある。
- ・ 市の復興のために、地元の若者だからこそできることを進め、珠洲を盛り上げる一員になる。
- ・ 地域（在所）を超えたつながりが必要。例えば、A町で解決した課題をB町ですぐに解決できるように。
- ・ 協議団体など、復興について話し合い、行動するための団体が必要。
- ・ 黒瓦のまちなみ再建。町の景観は自然や地形、文化などからできている。
- ・ 文化の存続、祭りの再開（再建）。祭りは重要、祭りがしたい。
- ・ 珠洲の復興には子ども中心の考えが必要。
- ・ 出産可能な医療体制が必要。珠洲では出産ができず、健診も受けられない。

### 基本方針3 生産性の向上を図るなりわいの再建

- ・ 事業再建目処をたてること。事業再建による復興の基盤づくり。
- ・ あみだ湯のような人が集まる場所を守っていききたい。大切にしていきたい。
- ・ 「仕事を失った」「お店をやりたいけどもできる状況じゃない」などの問題を抱えている。失職者への支援が必要。
- ・ 海、船、港の安全確保。
- ・ 空港付近に新たな町ができるのは面白い。奥能登2市2町で復興を考える必要がある。行政同士での連携が難しくても民間同士なら可能か。
- ・ 仮設店舗を利用できる事業者を新設会社もOKにして欲しい。
- ・ スタートアップ企業への補助金の支援。
- ・ 仕事の選択肢が少ないことが課題。（土木関係や公務員が多い）
- ・ 有名企業誘致による求人増加（人と土地の整備）。
- ・ 珠洲で何かをやりたい人は大勢いると思う。

### 基本方針4 これまでの取組みを活かした魅力ある地域の再生

- ・ 若い人が増えること、移住者が増えること。
- ・ 子どもも高齢者も住みやすいまち。
- ・ 里山里海が守られる、自然と共存しているきれいな珠洲。
- ・ 珠洲の魅力は豊かな自然と人。

### 基本方針5 DXの推進による「つながる社会」の実現

- ・ 都市的になりすぎると魅力（自然や人間らしい営み）が減る可能性がある。
- ・ やむなく市外へ出た世帯や子どもたちとの交流の機会があるとよい。（転校先の学校と珠洲の学校がオンラインでつながる、一緒に授業を受けるなど）

## ●「子ども・教育」に関する意見

第2回目はこちらのテーマで意見交換会を開催し、多くの意見を頂きました。一部をご紹介します。

### 施策2-4 学びの環境の再建

#### 子どもにとって大切にしたいこと

- ・ 統合とか、大人数、少人数など正直どうでもいい。形より中身。環境が大事。人口や市の財政状況等の都合により変わっていく。子どもたちに寄り添える、先生が楽しく働ける、子どもたちの知性を伸ばす、尊重する環境。それも、いまではなく数十年後の知性を伸ばしてあげられる環境をつくりたい。
- ・ 自分で切り開いていく力（人間力）が必要。先生に言われたから、みんながやっているからでなくて。
- ・ 子どもに多くの選択肢を与えたいと思う一方で、限られた環境の中でどうするのか生きていく力を養うことも大切（例えば、冷蔵庫にあるものだけで料理をつくる感覚）。
- ・ 珠洲で子育てしたいと今は思えない。いろいろな物事や経験の機会が少ない。
- ・ 学校教育では、最低限の読み書き計算、社会性（コミュニケーションの力）など義務教育の質を上げる。
- ・ セーブザチルドレンのアンケートを参考にしよう！遊ぶ場所がなくなったり、やりたいことが書いてある。
- ・ 子どもたちが奪われてしまった公園や運動場の代わりになるものを探す、子どもと一緒につくる。
- ・ 子どもたちが珠洲で過ごして、仲間と思い出をつくれる環境を大切にしたい。
- ・ 子どもは親の影響を受けやすい。親がいまの珠洲をどう思っているのかが重要。珠洲を好きになるにはどうしたらいいか。自分たち大人が生き生きとして、人任せにせず、ちゃんとやるのが1番なのでは。
- ・ 保育園児など今後珠洲を継ぐ子どもたちが、珠洲をふるさとだと認識する前に離れてしまっていることが大きな問題である。戻ってきやすい教育環境を整える。

#### 地域と学校について

- ・ これからの学校や教育、子育て環境の在り方について、ちゃんと議論すること。市と住民とで合意形成を進めること（統合すべきだ、地域に在った方が良く、だけでなく議論を前に進めていきたい）。
- ・ 部活の選択肢がない⇒スポーツクラブがあってもいい。運動部・文化部の地域移行が進めば地域との交流が盛んになり、豊かな環境になるのでは。
- ・ 学校が統合したら地域で育てられるような仕組みを、分散したままなら、例えば体育の授業だけは全校集まってやるなど、どちらのカタチになっても、課題に対して解決する方法を確実に取っていくことが大切。
- ・ 学校がすでに統合されて無い地域、例えば狼煙地区などは地域として廃れているかというところではない。むしろ主体的に活動されていて元気な地域だという印象。そこに住む個人の影響もあるだろうけど。一方、直地区は人は多いけど、アクションは起こせていない。どの地域も潜在力はあって、アクションを起こすコト、人が大切。
- ・ 都会は塾やクラブがあり選択肢はあるけど、珠洲にはない。珠洲でどうやって、学校教育と、地域と、家庭で役割分担してやるか。学校教育ではとにかく基礎学力を身に付けることが重要で、その他のことは地域でやろう！とか、学校教育に多くを求めすぎない。どうやって分担するかが重要。
- ・ どうやったら珠洲を好きになるか＝郷土愛の醸成を学校や地域でどう行うか。
- ・ 移住定住促進や人口減少に抗うために子どもたちに還ってきてほしいと思うのは、郷土愛の搾取につながると良くない。本人の幸せや自己実現のための郷土愛と考えたい。
- ・ 特色のあるコミュニティスクールを伸ばしていく。
- ・ 先生たちの現場の声がここに無い。でも声を上げにくいのかと思う。管理職を通さなければ答えられないと言われたことがある。

#### 学校の人数規模について

- ・ 珠洲の良いところを残したい。子どもが震災後市外の学校（30人/クラス）に行ったが、やっぱり珠洲の学校がいいと言って戻ってきた。少人数の方が雰囲気良かった。
- ・ 一人ひとり保護者と面談をして通知表を渡すことはとても丁寧。都会だとそうならないのでは。
- ・ 子どもたちが意見を言い合うときは大人数の方がよさそう（多様な価値観に触れる機会）。例えば日頃いろんなところにいる子どもたちがオンラインで交流し、必要に応じて1か所に集まるような体制をつくる。
- ・ 同じ境遇で顔見知りが多い場所は多少不便でもずっと住み続けたい場所になる。一方で僻地に一人で暮らしていると除雪や草刈りなど維持管理コストがかかる。学校も分散しすぎると同級生がいなくてキャッチボールもできない。適度な集約化と分散化が実現してほしい。
- ・ 義務教育学校に魅力がある（珠洲に義務教育学校が出来たと聞いてUターンした）。少人数の丁寧な指導など。
- ・ 人数が1ケタ台は少ない。一人ひとりの役割が多い。先生が目が行き届きすぎて自主性が育ってなさそう。できることが限られるという課題はある。
- ・ 学校統廃合について、すぐに統合をするのは現実的ではないが、現状を放置していい訳でもない。ハード面はすぐに対応できないものの、ソフト面での何かしらの工夫や対応が必要。
- ・ 周りの子育て世代に聞いてみた。<珠洲を出るか迷うポイント>安全な遊び場がない。放課後両親が帰るまでの居場所がない。少人数すぎて良い環境ではない。一刻も早く学校統合してほしい。

## ●今後の予定

11月「住まい」、1月「仕事、なりわい」をテーマに開催する予定です。

## ●お問い合わせはこちら

すず里山里海移住フロント（事務局：珠洲市企画財政課）

電話：0768-82-7726 メール：iju@city.suzu.lg.jp

公式LINE：@392wolaq（右記二次元コード）



# すず若者意見交換会(第3回)報告

令和6年11月24日  
すず里山里海移住フロント  
(珠洲市企画財政課)

## ●すず若者意見交換会とは？

それぞれが今考えていることや想いを共有し、自分たちはどう生きるか、これからの珠洲をどうしていくかを一緒に考えようという会です。本会での意見は市役所関係課室にも共有するとともに、ホームページ等で公開します。

## ●第3回開催

11月に珠洲、オンライン、金沢で開催し、24名が参加しました。今回のテーマは「住まい」。支援制度をもとにそれぞれの状況を整理し、最後は未来の家について共有しました。また各回にゲストをお招きして、住まいの再建に関する事などを話し合いました。

### 写真

会場の様子（左：珠洲、右：金沢）

### 未来の家ワークシート



## ●ゲストセッション内容

ゲストとセッション形式で話し合いました。一部をご紹介します。

### 11月10日 珠洲会場

#### ゲスト

高橋 知巳氏（兵庫県職員）

長期派遣職員として珠洲市環境建設課にて勤務。災害公営住宅などを担当。

#### ●家を再建するにあたり規制はあるか。

市としてはいまのところ大きな規制をしない方針（ここに建ててはダメなど）。地域ごとのまちづくり協議会ではそのような話をしている。

#### ●巷では珠洲で新築すると150万円/坪かかると言われているがどう思う。

昨年度の石川県平均は74～75万円/坪だったと思う。奥能登だと80万円/坪程度か。

#### ●土砂災害警戒区域に家があるが本当は修繕して住みたくないという気持ちもある。安全な土地かどうか知りたい

市役所復旧復興本部のホームページに「国土地盤情報センター」のリンクが張っており、ここからボーリング調査データを見ることができる。

### 11月13日 オンライン会場

#### ゲスト

野崎 隆一氏（神戸まちづくり研究所/理事）

阪神・淡路大震災の経験をもとに、地域とともに考える復興の場づくりを支援。

#### ●阪神淡路はどのくらいのスピードで住まいの再建が進んだか。

3月から仮設住宅が立ち並び、8月末に全避難所が解散。仮設入居から2年後くらいで災害公営住宅の着工が始まり、5年後には全ての災害公営住宅が出来上がり、仮設の解体もすべてが5年以内に解体された。

#### ●阪神淡路の時、どのような支援があったのか？

支援制度はほとんど無かった。住まいは自分で再建するもの、という考えが中心で、自分で建てる時に利子補給が受けられる程度。生活再建支援金などもなかった。

#### ●東日本の防災集団移転では資金の調達はどうしたのか。実費か。

高台への宅地造成は、ほぼ全額、国の補助金で行い、出来上がった宅地を原則そこに家を建てる人が安い地代を払って土地を借りる。土地は借りて、家は自費で建てる。金融公庫などのローンを使い金利の低減措置が受けられた。東北の人は借地経験があまりなく、土地の取得を希望する人もいたため、途中から買取可能になった。

### 11月16日 金沢会場

#### ゲスト

西 和人氏（建築プロンティアネット）

能美市にて（株）西和人一級建築士事務所を営む。

岡 佑亮氏（建築プロンティアネット）

金沢市を拠点に建築設計事務所chidori studioを営む。

#### ●住まいの相談はたくさんあるのか。

YNFなど支援団体から依頼を受け、住まいの相談で住宅を回っている。2月当初は7件/日ほど。最近は落ち着いている。家財取り出し時のルート of 安全確認や、罹災証明書取得にあたっての補助のため（例えば床をはがしたら地割れがあったなど）調査をした。現在は、修繕に関わる状態確認、どう直せば良いのか相談にのっている。

#### ●西さんや岡さんに住まいの相談がしたい場合はどうすればよいか。

直接お問い合わせ、またはYNFなど現地にいる支援団体に言ってもらえると。住まい相談はつきっきりの設計業務という形式ではなく、住宅を見た客観的な意見を議事録としてお渡しするというをやっている。建替えなど設計業務は通常の仕事として受けている。

### ●第3回で出た意見（まとめ）

以下の通り、本会にて出た意見を復興計画（案）の基本方針及び施策ごとに分類しながらご報告します。  
詳細は別紙資料「すず若者意見交換会 意見一覧表」をご覧ください。

#### 基本方針2 暮らしとコミュニティの再建

- 山を開いて平地にできないか。食料自給率を上げるべく農地を増やし、都市部から興味関心がある人を呼び込み、住むところを増やし、土砂災害などのリスクも減らせる。
- 母は30~40分かけてスーパーに行くのがしんどい。飯田か野々江に住みたいと言っている。
- 建築基準法改正（R7年）が予定されているため、適合するように修繕したい。
- 地盤により建て方も変わる。新築時の地盤調査には大体5~8万円程度かかる。
- 例えば土砂崩れのリスクがあり、行政として安全な場所を示すことが難しいとすれば、地質調査費用に対して支援できるような制度を作ることが必要ではないか。
- セルフビルドチームをつくってはどうか。昔は隣近所で家を建てたり直したりしていた。
- 山や川の様子が変わっているが、ハザードマップは変わらないのか。
- 安全な場所や調査の情報を行政が提供していくことが大切。
- 震災後、家族は市内外に分かれて暮らしている。家が広くて、自然が見えて、庭と畑がある珠洲で暮らしたい。半壊以上の家と住みたい人のマッチングができないか。（解体リストと買いたいリストを利用して。）
- 0円譲渡をすすめたい。周りの人たちに、「解体するなら0円で渡そうよ。」と伝えているが、そういう人は出てこない。他の家は30万/月で貸してる、今潰すと得、など損得の話ばかりになる。
- 半壊と準半壊の支援格差が広がっている。
- 土地のマッチングサービス（売りたい人、買いたい人）があると良い。
- 自分の状況を入力したら利用可能な支援メニューが表示されるようなアプリがあると良いと思う。
- 現状の支援メニューに加え、将来的に独自の支援策が追加される可能性はあるか。
- まちづくり協議会は、区長会で話がとまり、自宅避難者から意見聴衆がされておらず、一部の人だけで話している状態。改善されることを期待したい。
- 珠洲と金沢での二拠点生活を想定し、金沢には最低限のコンパクトな家、珠洲には大きな家を持つ。
- 二拠点制度について、税金関係の補助があるとよい。保育園・学校の問題や、住民票の問題も解決できるようになればよい。
- 昔から能登は出稼ぎ文化があった。都会から人が来て二拠点生活してもらえるよう構築できると面白い。
- みんなで家を所有する（共同所有/分散所有）仕組みをつくれぬか。都市部から地域にきたい人たちがいる。自然があり、畑があって滞在できるような。
- 家をシェアすることも考えられるのでは。例えば一人暮らしのおばあちゃんの家には若者が住むなど。病院に行きたいときに誰かいるのといないのとでは違う。
- 集落の関係性も大事にできる場所に住みたい。
- 命を守る家ということが1番大事。
- 自分のライフステージが変わっていくところで、ずっとそこに住み続けるのか、手放して小さい家に住みかえるとか、違う地域に行くという選択肢もあると思う。
- 住まいを再建するときにはリセールバリューを考えておいた方がよい。長い目で見たときに安心できる。
- 雨水濾過の貯水タンクやガスコンロ、薪ストーブなど、災害時に使える設備。インターネットやソーラーパネル充電可能なポータブルバッテリーも導入予定。
- 住民と市外の人との潤滑油になるような役割を担う人が必要。
- 家族や兄弟が集まり楽しめるうちをつくりたい。楽しく暮らすというのが一番。
- 家を切り離して部分解体という手もある。例えば、損傷が大きかった箇所を切り離し、公費解体して、残った部分に水回りをいれて住めるように修繕するなど。
- 設計士に相談中だが、別の設計士さんに意見を聞くこともありかもしれない。セカンドオピニオンとして。
- 命を守るというのはそうだが、来るか分からない自然災害にずっと怯えて、家を頑丈にして窓のない家に住み、何かあった時は絶対に命が守れるけど、通常はどこか退屈、では全然意味がない。
- 家族で金沢に避難し、この先どこに住むかはまだ決まっていない。すぐ戻るのか戻らないのかも含めて、ちょっと今、未来の家が全然イメージできない。

#### 基本方針4 これまでの取組みを活かした魅力ある地域の再生

- 今珠洲に住みたいと来る人たちがいる。住まいがないと断ってしまっただけでは今後住んでくれないかもしれない。他の魅力的な土地にいつてしまう。
- 完全移住となるといくつもハードルがあるが、コリビング（シェアハウス+コワーキングがある家）やシェアハウスビレッジ（シェアハウスがいくつもある場所）があると地域に住みやすいのかなと思う。

### ●今後の予定

1月「仕事、なりわい」をテーマに開催予定です。

### ●お問い合わせはこちら

すず里山里海移住フロント（事務局：珠州市企画財政課）

電話：0768-82-7726 メール：iju@city.suzu.lg.jp

公式LINE：@392wolaq（右記二次元コード）



# すす若者意見交換会 開催記録

## ●第1回開催

テーマ 「自分や家族がどう過ごしたいか（これから半年）」

「これからの珠洲市のために何に取り組むか（もし自分が市長なら）」

日程	会場	参加人数	
6月30日	野々市市（いしかわ大学連携インキュベータ）	15名	
7月6日	珠洲市（市役所4階会議室）	16名	
7月10日	オンライン（ZOOM）	20名	計51名

## ●第2回開催 ※NPO法人ガクソー共催

テーマ 「子ども・教育」

日程	会場	参加人数	
8月31日	珠洲市（台風のためオンラインに切替）	12名	
9月1日	金沢開催（参加人数が少ないため中止）	中止	
9月3日	オンライン（ZOOM）	14名	計26名

## ●第3回開催

テーマ 「住まい」

日程	会場	参加人数	
11月10日	珠洲市	10名	
11月13日	オンライン	7名	
11月16日	金沢市	7名	計24名

## ●第4回開催 1月予定

テーマ（仮） 「仕事・なりわい」

日程	会場	参加人数
未定	金沢、珠洲、オンラインの3回を予定	

- ✓興味があるテーマの会にぜひご参加ください！周りの人の声や意見を代弁する心意気で。
- ✓テーマごとにスピノフの会を開催予定です。ご関心のある方はご連絡下さい。
- ✓開催レポートをホームページに掲載中です！（右記二次元コード）

珠洲発・暮らしのウェブマガジン「すっどすっど」

